

『ビタミンと肝臓(2) ビタミンA』

肝臓川柳



『ビタミンA とり目も癌芽も 取れちゃうぞ』

(とれちゃうぞ・・・トレチャウド・・・レチノイド)

.....ノノノノノ

多くのビタミンの中で、ビタミンAも特異な重要な働きがあります。

特に視神経に重要で、不足すると“夜盲症（とり目）”になります。

化学的には“レチノイド”とも呼ばれます。

レバー・うなぎや、野菜ではβカロチンとしてカボチャ、ニンジンなどに多く含まれ、体内に入ると肝臓に貯蔵されます。

★肝臓との関わり★

最新の重要な情報としては、肝がんの再発予防としての働きです。

ビタミンA（レチノイド）は、細胞の核内に働いて、がん化の過程を抑える作用があるのです。

これまでの抗がん剤などと違い、がん発生の前段階“がんの芽”を除去します。

『非環式レチノイド（NIK-333、興和創薬株式会社）』として薬剤化もされています。

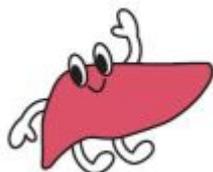
▼治験では・・・▼

肝細胞癌治療後の二次肝発癌を有意に抑制し、

生存率も著明に改善させることが確認されています。

肝細胞癌は発癌率、再発率が非常に高い病気であり、

早く日常的に使用出来ることが期待されています。



これだけ覚えておけば損はない！

今回のポイント

ビタミンAには肝がんの発生予防の効果が期待され、

細胞核内にてがん化の過程を抑える作用があると言われています。

現在の治験の結果でも肝癌治療後の二次肝発癌を有意に抑制している結果が出ており、臨床での使用が期待されています。

(文 : 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会

野ッ俣 和夫)